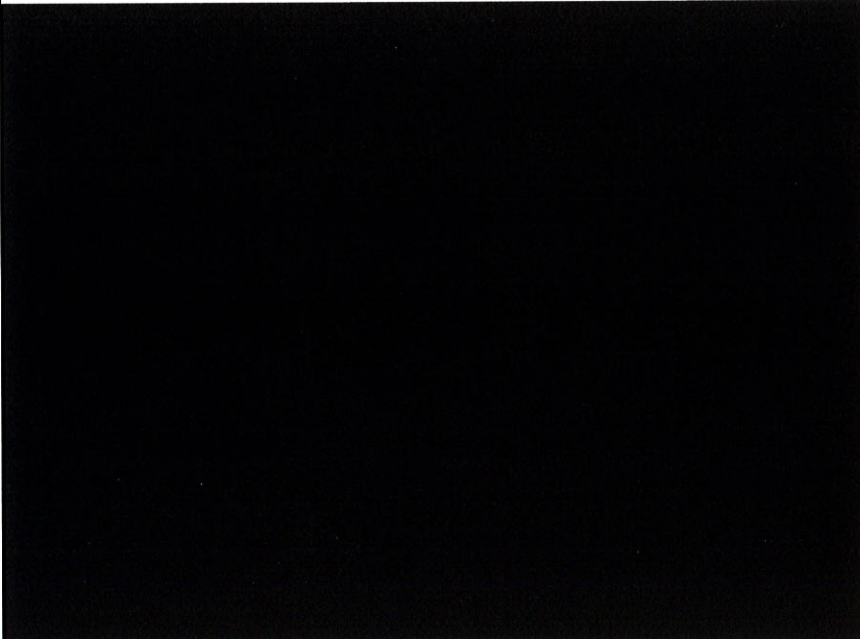


2022 年度SDGs 未来都市等提案書（提案様式1）

令和4年2月25日

輪島市長 梶 文秋

提案全体のタイトル	“あい”の風が育む 「能登の里山里海」・「観光」・「輪島塗」 — 三位一体の持続可能な発展を目指して —
提案者	石川県輪島市
担当者・連絡先	

1. 全体計画(自治体全体でのSDGsの取組)

1.1 将来ビジョン

(1) 地域の実態

(地域特性)

○地理的条件

世界農業遺産「能登の里山里海」に代表される、豊かな自然に恵まれている。

輪島市は本州中央部日本海に突出した能登半島の北西部に位置し、市域面積は 426.32 km² である。東は珠洲市・能登町に、南は穴水町・志賀町に接している。市の中心部から石川県の県庁所在地金沢へは約 120km、車で約 2 時間を要する距離にある。

地形は、東部から宝立山 (471m)・鉢伏山 (544m)・高州山 (567m)・高爪山 (341m) などが連なって海に迫っている。山間丘陵地を源とする小河川は、いずれも樹枝状になって日本海に注ぎ、それぞれ沖積平野を形成し、市街地や農耕地が開けている。80km 余に及ぶ海岸線は優れた自然景観を呈し、「能登半島国定公園」に指定されている。

北方海上には、セツ島 (23km 沖)、舳倉島 (49km 沖) があって、遠洋漁業の拠点となっている。また、2011(平成 23)年に国連食糧農業機関 (FAO) から、世界的に重要な農法、景観、生物多様性等を有する地域として、世界農業遺産「能登の里山里海」に認定された。

○人口動態

人口・世帯数とも減少傾向が続き、高齢者世帯の割合が増加している。

2022(令和 4)年 2 月 1 日現在の推計人口は 24,840 人であり、人口の約半数が 65 歳以上の高齢者となっている。輪島市の総人口は、1980(昭和 55)年から 2020(令和 2)年までの 40 年間で、当時の約 6 割まで減少している。

人口の減少に伴い、輪島市全体の世帯数も減少し続けている。一方、高齢者が住む世帯は増加傾向にあり、65 歳以上の高齢単身世帯や高齢夫婦世帯数は、1985(昭和 60)年から 2020(令和 2)年までの 35 年間で 3 倍以上に増加している。2020(令和 2)年では、これらの世帯で、全体の約 4 割を占めている。

○産業構造

第 1 次産業の就業人口が減少、第 2 次産業及び第 3 次産業の就業人口が増加している。

第 1 次産業の就業人口は、1960(昭和 35)年には 16,352 人を数えていたが、2021(令和 3 年)には 2,258 人と 9 割近くの減少となっている。これに比較して第 2 次産業及び第 3 次産業の就業人口は、1970(昭和 45)年以降 5 割を超えて増加している。輪島市の代表的な地場産業である「輪島塗」は、近年販売額の落ち込みが大きく、後継者不足も深刻である。また、観光産業についても、「のと里山空港」の開港や「北陸新幹線金沢開業」を追い風に順調に推移していたが、コロナ禍の影響により、国内・海外とも観光入込者数は大きく減少に転じ、先行きが懸念されている。

○地域資源等

「能登の里山里海」、朝市を拠点とする「観光」、「輪島塗」の3つの輪島ブランドを国内外に発信している。

①世界農業遺産「能登の里山里海」を育むまち

2011(平成23)年6月、国連食糧農業機関(FAO)から、能登半島に広がる「能登の里山里海」が、日本で初めて世界農業遺産に認定された。

その目的は、世界的に重要な農業上の土地利用、景観、生物多様性の保全を推進することで、地域に古くから伝わる農業や、伝統的・文化的資源を活用しつつ、生物多様性の保全や生物資源の持続的な利用を図ることである。

地域の人々の暮らしに根ざす、こうした多様な資源の総合力が、市民のふるさとへの誇りや愛着の源泉となり、今後の輪島市の発展に繋がることが期待される。

②朝市を拠点とする「観光」のまち

年間60万人を超える観光客が訪れる「朝市」を拠点とし、日本の原風景ともいえる「白米千枚田」、国の重要伝統的建造物群保存地区に指定されている「黒島地区」など、豊富な観光資源を有する輪島市は、のと里山空港や能越自動車道の延伸、北陸新幹線金沢開業により、交通アクセスも大幅に向上し、国内外からのさらなる誘客が期待される。

③世界に冠たる「輪島塗」のまち

輪島市は、「輪島塗」のまちとして国内外に知られ、地域のブランドイメージが形成されている。「輪島塗」は、伝統的な技術または技法を用い、120以上の工程を経て完成する伝統的工芸品で、天然漆や指定された木地を用いた堅牢な塗りと加飾の優美さで知られている。

輪島市の、漆器産地としての有形無形の地域資源は、世界標準の価値や文化を発信しつつ、人の交流から多様なまちづくりまで、幅広い展開が期待される。

(今後取り組む課題)

第2次輪島市総合計画(後期計画)の着実な推進

輪島市では、現行の「第2次輪島市総合計画(前期計画)」の計画期間が2021年度に終了することを踏まえ、2022年度から2026年度までを計画期間とする「第2次輪島市総合計画(後期計画)」を策定した。

策定にあたっては、以下の3つを「基本的考え方」として、今後の様々な課題に取り組んでいくこととしている。

1. 輪島市における自治体SDGs施策の推進
2. 「輪島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」との一本化
3. 時代の変化に的確に対応し、市民に分かりやすい計画づくり

第2次輪島市総合計画（後期計画）体系図

基本理念

地域特性と市民の知恵を最大に活かした
まちづくりの推進

将来像

“あい”の風がはぐくむ 快適・活気・夢のまち

基本方針

快適	I. 安全・安心・快適なまちづくり	I-1 持続可能なまちづくり I-2 安全・安心なまちづくり I-3 自然・景観の保全・活用
活気	II. 活力を生み出すまちづくり	II-1 戦略的交流による地域振興 II-2 活力に富む産業振興 II-3 多様な就労機会の創出
夢	III. 健やかに過ごすまちづくり	III-1 女性が活躍できるまちづくり III-2 地域で支え合う福祉の増進 III-3 生涯の健康づくり
夢	IV. ふるさを学び誇るまちづくり	IV-1 困難に打ち克つ人づくり IV-2 伝統・文化を次代につなぐ
夢	V. 市民と行政の協働によるまちづくり	V-1 行政経営基盤の強化 V-2 さらなる協働によるまちづくりの展開

基本方針1 安心・安全・快適なまちづくり

環境の世紀と言われて久しく、また、高度情報化の進展によりグローバルスタンダードがより身近になる一方、人口減少や高齢化等による人口構造の変化、全国的に頻発する自然災害など様々な想定外の出来事が、市民の暮らしやコミュニティの再構築を迫る要因となっている。

こうした時代の変化に翻弄されることなく、今後とも奥能登地域の中心的役割を果たす責務を自覚し、将来を見据えた持続可能なまちづくりを推進する。

基本方針2 活力を生み出すまちづくり

多様な交流機会を生み出すことで地域の活力を高め、有為な人財が確保されることで新たな市場開拓等につなげるため、戦略的交流による地域振興、活力に富む産業振興、多様な就労機会の創出に取り組む。

特に、漆器と観光の2分野において、積極果敢な産業振興により他産業への効果の波及につなげるとともに、若い世代や移住者等が働く選択肢を増やし、産業の担い手育成に努める。

基本方針3 健やかに過ごすまちづくり

人口減少に歯止めをかけ、地域の活力を高めるために、従来の固定的な性別による役割分担にとらわれず、男女が平等に、自らの能力を生かして自由に行動・生活できる「ジェンダーフリー」なまちづくりに取り組む。

特に、若者世代の子育て環境を整えるため、出会い・結婚・出産・子育ての各段階で、当事者を支える取り組みを進める。

基本方針4 ふるさを学び誇るまちづくり

輪島市が有する「能登の里山里海」の豊かな自然環境、独自の歴史と伝統文化を身近に感じることができる恵まれた教育環境のもと、各段階における児童生徒の個性や能力の伸長に努め、困難に打ち克つ人づくり、ふるさを次世代につなぐまちづくりに取り組む。

特に、輪島市内県立高等学校の魅力をもさらに向上するための「高校魅力化プロジェクト」事業を重点的に推進する。

基本方針5 市民と行政の協働によるまちづくり

これからのまちづくりは行政だけで進められるものではなく、成熟した地域社会における官民の役割分担を明確にしつつ、市民との協働によるまちづくりの展開が不可欠である。

そのために、けん引役となる組織と人の充実、行政経営基盤の強化を図り、多様な人財が活躍できる地域づくりを推進する。

(2)2030年のあるべき姿

【2030年のあるべき姿】

輪島市の2030年のあるべき姿、目指すべき将来像は、2006(平成18)年度に策定した「第1次輪島市総合計画」から不変である。それは、「“あい”の風がはぐくむ、快適・活気・夢のまち」という言葉で表現されている。

「市民が安心・安全で、“快適”に暮らせるまち輪島」、「多くの人が集い、“活気”に溢れるまち輪島」、「子どもから老人まで、あらゆる世代が“ゆめ”を描けるまち輪島」、これら2030年の輪島市のあるべき姿を、以下具体的に記載する。

1 安心・安全・快適なまち



- (1) 交通ネットワークが整備・更新され、公共交通機関の利便性・快適性が維持されている。
- (2) 移住・定住者受入体制が充実強化され、起業・創業支援により、輪島の地域ブランドが効果的に発信されている。
- (3) 防災対策・対応力が強化され、災害に強い安全なまちづくりが推進されるとともに、ごみの抑制とリサイクルにより、持続可能な循環型社会の形成が進んでいる。

2 活力を生み出すまち



- (1) 戦略的観光交流により地域振興が図られ、「新しい生活様式」に対応した、これからの観光のあり方が検討されている。
- (2) 全国的にも知名度の高い輪島塗ブランドと漆器産業の強化が図られている。
- (3) 人材育成や担い手確保、6次産業化の推進など、農林水産業の振興が図られている。

3 誰もが健やかに過ごせるまち



- (1) 女性が活躍できるジェンダーフリーな社会を目指し、女性の積極的な社会参加が進んでいる。
- (2) 地域の包括的な支援・サービス提供体制の充実が図られ、地域で支え合う福祉の増進に寄与している。
- (3) 感染症対策など、奥能登地域の地域医療拠点としての「市立輪島病院」の機能充実が図られている。

4 ふるさを学び、ふるさを誇れるまち

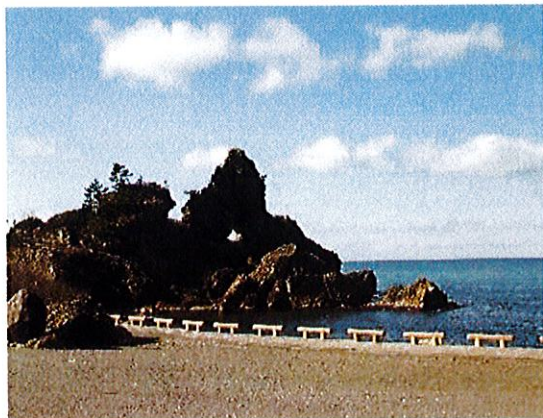
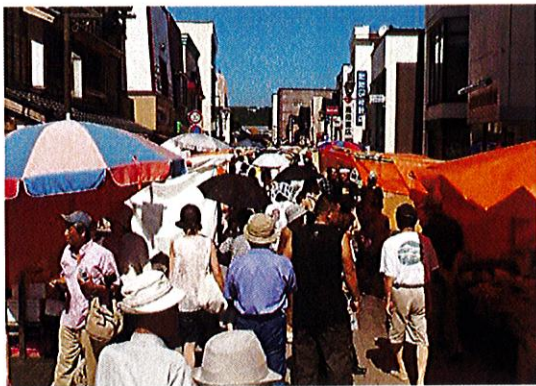


- (1) 「オール輪島」で取り組む学校教育の充実とふるさと教育の推進により、輪島市内県立高等学校の魅力がさらに向上している。
- (2) 「能登の里山里海」に育まれた自然環境や、固有の伝統文化が保存・継承されている。

5 市民と行政の協働により発展するまち




- (1) デジタル社会の進展など、新しい時代の流れを力とする行政サービスが推進されている。
- (2) 多様な人々が地域の担い手として輪島市を応援し連携する、「協働のまちづくり」が推進されている。



(3)2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール、ターゲット

(経済)

(1)「輪島市立地適正化計画」の基本方針に基づき、「居住誘導区域」及び「都市機能誘導区域」において、それぞれ必要な都市機能の集積が促進されている。


ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 2	指標: 居住誘導区域内の人口密度	
	現在(2021年3月): 37.1人/ha	2030年: 33.5人/ha

中心市街地の活性化と、魅力あるまちづくりに関する多彩な取り組みが一体となった市街地整備が進められている。

市民の足として、バスの運行維持や新たな交通手段の導入等、効率的で公正な公共交通が維持されるとともに、地理的条件による交通弱者や高齢者等に対し、公共交通機関の提供による安全・安心な移動手段が確保されている。





また、新たな交通手段の導入や歩行者・高齢者のためのモビリティの通行空間のあり方が検討されている。

(2) 移住者受入体制が充実強化され、輪島の地域ブランドが効果的に発信されている。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5、8	指標: 空き家データベース登録件数	
	現在(2021年3月): 147件	2030年: 250件
	指標: 移住者数(定住促進奨励金年間交付者数)	
	現在(2021年3月): 19人	2030年: 40人
	指標: 移住定住住宅の整備	
	現在(2021年3月): 12室	2030年: 24室
	指標: 移住イベントへの参加回数	
	現在(2021年3月): 2回	2030年: 4回
指標: 新規出店補助金交付数		
現在(2021年3月): 9件	2030年: 20件	

人口減少傾向を抑制し地域活力を高めるため、UJIターン世帯の移住・定住を積極的に受け入れ、人口規模が堅持され、また、規模の大小を問わず個性的で活力に溢れる起業・創業のため、稼げる地域をつくり、賃金ややりがいの面で魅力的な仕事の場を創出するための相談体制の充実、各種情報の提供、マッチング機会の拡充が進んでいる。

(3) 人材育成や担い手確保、6次産業化の推進など、農林水産業の振興が図られている。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
2  3	指標: おおぞら・町野町農業協同組合の売上高	
	現在(2021年3月): 22億円	2030年: 25億円
15  1, 2, 4, 9	指標: 能登森林組合の売上高	
	現在(2021年3月): 9億円	2030年: 10億円
6  6	指標: 石川県漁業組合輪島支所・門前支所の売上高	
	現在(2021年3月): 38億円	2030年: 46億円
14  2	指標: 漁業環境の保全による漁獲高の維持	
	現在(2021年3月): 10,148t	2030年: 11,000t



農地の集約化・機械化による稲作経営を中心に、経営母体の安定化に向けた生産基盤整備等による生産性向上、時代のニーズに応じた高付加価値の農産加工品の生産等6次産業化の推進、担い手の育成など、総合的・持続的な農村振興が図られている。

また、森林環境税や森林環境譲与税を活用し、森林経営者管理制度を推進するとともに、間伐や路網などの森林整備、人材育成と担い手の確保、木材利用の促進や普及啓発に取り組んでいる。

さらに、漁業者が意欲と展望を持って就労できる持続可能な水産業を目指し、担い手の確保、水産物や加工品の高付加価値化と販売力強化が進められている。




(社会)

(1) 女性が活躍できるジェンダーフリーな社会を目指し、女性の積極的な社会参加が進んでいる。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
5  1	指標: 延長保育実施箇所数	
	現在(2021年3月): 4箇所	2030年: 5箇所
4  5	指標: 生後3ヶ月未満児の全戸訪問実施率	
	現在(2021年3月): 99.1%	2030年: 100%

ジェンダーフリーな社会の実現を目指し、民間企業等と連携しつつ、「わじこん」の拡大等男女の交流機会の拡充を図るとともに、出産・子育てにおける経済的・精神的な負担を軽減し、安心して出産できる環境整備に取り組んでいる。


(2) 地域の包括的な支援・サービス体制の提供が図られ、地域で支え合う福祉の増進に寄与している。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 1  2  4	3	指標: 地域貢献見守り事業者数
		現在(2021年3月): 72 事業者
	2,3,4	指標: 病児保育実施箇所数
		現在(2021年3月): 1 カ所

地域福祉に関わる多機関の協働と連携による切れ目のない支援体制の構築とともに、地域や住民の協力、共助の仕組みの構築が図られている。

また、地域の担い手の確保と育成を強化し、幅広い地域福祉活動を推進するため、中心的役割を果たす「輪島市社会福祉協議会」の機能強化など、体制整備が図られている。

(3) 感染症対策など、奥能登の地域医療拠点としての「市立輪島病院」の機能充実が図られている。


ゴール、 ターゲット番号	KPI		
 5	3,4	指標: 輪島病院常勤医師数	
		現在(2021年3月): 18 人	2030年: 20 人
		指標: 市立輪島病院1日当たりの外来患者数	
		現在(2021年3月): 458 人	2030年: 461 人
		指標: 市立輪島病院年間訪問介護件数	
		現在(2021年3月): 1,942 人	2030年: 2,000 人

地域の中核病院としての安定かつ健全な病院経営に向けて、市立輪島病院改革プランに基づく計画的な経営体制が推進されている。

コロナ禍などの感染症拡大を踏まえ、医師や医療スタッフの確保、診療科目の充実、高度医療機器の導入など、公的医療機関として必要な機能の充実が図られている。

(環境)


(1) 防災対策・対応力が強化され、災害に強い安全なまちづくりが推進されている。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 b	指標: 自主防災組織率	
	現在(2021年3月): 74.6%	2030年: 80.0%

長い海岸部と平野部が少ない輪島市の特徴から、土砂災害や河川の氾濫への的確な対応や能登半島地震の教訓を生かした災害に強い安全なまちづくりが推進されている。

とりわけ、「自分たちのまちは、自分たちで守る」という信念のもと、自主防災組織の育成や定期的な防災訓練の実施により、地域が助け合いながら災害に対応できる環境づくりが進められている。

(2) ごみの抑制とリサイクルにより、持続可能な循環型社会の形成が進んでいる。

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 4,5	指標: 1日1人あたり家庭系ごみ排出量の減少	
	現在(2021年3月): 501g	2030年: 480g
	指標: リサイクル率の向上	
	現在(2021年3月): 13.8%	2030年: 20.0%

限りある資源の有効活用とともに、生活様式の多様化や産業形態の多角化に対応する持続可能な循環型社会の形成を目指す取り組みが進んでいる。

具体的には、分別の徹底等によるごみの総量削減が図られるとともに、市民・事業者等へのリサイクル意識の啓発等により、リサイクル率が向上している。

1.2 自治体SDGsの推進に資する取組

(1)自治体SDGsの推進に資する取組		
①世界農業遺産「能登の里山里海」に象徴される、自然環境の保全と継承		
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 6	指標: 農業就業者数	
	現在(2021年3月): 1,574人	2024年: 1,580人
 2	指標: 林業就業者数	
	現在(2021年3月): 178人	2024年: 180人
 2	指標: 漁業就業者数	
	現在(2021年3月): 506人	2024年: 510人
 1, 2, 4, 9	指標: 農業就業者数	
	現在(2021年3月): 178人	2024年: 180人
<ul style="list-style-type: none"> ・世界農業遺産「能登の里山里海」の保全と継承 能登半島国定公園をはじめ、輪島市民の誇るべき財産である世界農業遺産「能登の里山里海」に象徴される海岸線、丘陵地の森林や、農地、河川等の豊かな自然環境を保全するとともに、貴重な動植物を守り育て、子孫の世代に引き継ぐ。 ・自然と共生する再生可能エネルギーの導入研究 環境汚染対策や、自然と共生しうる再生可能なエネルギーの導入研究、市民の環境教育の拡充に取り組む。 		
②輪島市の魅力を際立たせる自然・歴史的景観の保全・活用		
ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 6	指標: 輪島市の国・県・市指定文化財件数	
	現在(2021年3月): 331件	2024年: 336件
 2		
 1, 2, 4, 9		
<ul style="list-style-type: none"> ・白米千枚田や間垣など輪島らしい景観の保全・活用 輪島市の魅力を際立たせる白米千枚田をはじめ、貴重な海岸景観、豊かな田園風景、間垣など、ふるさとへの誇りと愛着を与える輪島らしい景観の保全、活用を目指す。 ・黒島地区重要伝統的建造物群保存地区など伝統的街並み景観の魅力向上 重要伝統的建造物群保存地区である黒島地区をはじめ、伝統的な街並み景観の魅力をさらに高めるため、歩行環境の向上と防災機能の強化を図るための施策を推進する。 		

③「朝市」や「白米千枚田」など、多様な観光資源を活用したツーリズムの振興

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 9	指標: 年間観光入込客数	
	現在(2021年3月): 132万人	2024年: 170万人
 b	指標: 年間宿泊客数	
	現在(2021年3月): 19万人	2024年: 30万人
	指標: 宿泊収容人数	
	現在(2021年3月): 2,176人	2024年: 2,200人
	指標: 年間外国人宿泊者数	
	現在(2021年3月): 2,400人	2024年: 3,000人

・滞在型観光都市への転換

北陸新幹線やのと里山空港といった交通結節点から国内外の誘客を促進し、通過型の観光地から、魅力ある滞在型の観光都市への転換を目指す。


・輪島固有の資源を組み合わせたツーリズムの振興

朝市や祭り、伝統文化、漆芸、自然、味覚など輪島固有の資源を組み合わせ、多様化する旅行者のニーズをくみ取り、体験型・交流型の要素を強化したツーリズムの振興に取り組む。

・コロナ禍による「新しい生活様式」に対応する観光の検討

コロナ禍による「新しい生活様式」に対応し、市民や近隣地域の住民が身近に楽しめる「普段使いの観光」や「地域の宝の再発見」など、新しい観光のあり方を検討していく。

④世界に冠たる「輪島塗ブランド」と漆器産業のさらなる強化

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 5,9	指標: 輪島塗生産額	
	現在(2021年3月): 26億円	2024年: 30億円

・漆器産業全体の基盤強化

輪島市を代表する基幹産業であり、全国的にも知名度の高い輪島塗ブランドと漆器産業の強化を目指す。そのため、職人等の担い手不足解消や原材料等の確保とともに、市場から求められる商品づくり、積極果敢な販路開拓など、漆器産業全体の基盤強化を進めていく。

・漆器産業の担い手不足の解消

担い手不足解消のため、中学から高校、専門高等教育機関までの担い手育成環境の整備と、就労先の環境改善の取り組みを支援する。

・時代の変化に適応した商品提供

消費者目線での、時代のトレンドに適応した商品提供につながる品質管理体制の構築を支援するとともに、若手職人を中心に、国内外の見本市への出展や販路拡大等を支援する。

(2)情報発信

【能登の里山里海】

(域内向け)

・環境保全型農業生産活動支援事業

能登の里山里海に育まれた、農業の有する多面的機能の発揮の促進を図るとともに、自然環境の保全に資する農業生産活動を支援し、将来に渡って持続可能な農業モデルを発信していく。

(域外向け（国内）)

・わじま里山里海まつりの開催

能登の自然にはぐくまれた山海の恵みを市民や観光客に紹介するイベントの開催により、能登の里山里海の魅力を広く情報発信する。

・白米千枚田の美しい景観を守る活動の推進

白米千枚田は日本海に面して棚田が連なり、その美しい景観は、奥能登を代表する稀少な資源として市民や観光客に親しまれ、輪島市の名勝に指定されている。

こうした白米千枚田の美しい景観を守り、後世に引き継いでいくため、稲作体験を通じて、先人の苦労、生産の喜び、米一粒の大切さを理解していただく「オーナー会員制度」を拡大し、地元の農家の方々との交流を図るとともに、「白米千枚田景勝保存活用基金」の設立などの財源確保、多方面にわたる情報発信活動等により、美しい景観を将来に渡り保全していく。

・世界農業遺産「白米千枚田 あぜのきらめき」事業

地元企業等の協力により、約 25,000 本の使用済みペットボトルをLED装置として活用し、農閑期の白米千枚田にイルミネーションのライトアップを施し、世界農業遺産の象徴のひとつである「白米千枚田」の魅力を広く情報発信する。

(海外向け)

・世界農業遺産国際会議参加出展事業

「世界農業遺産国際会議」への参加出展や、国連機関幹部や政府高官も出席する「ハイレベルセッション」やシンポジウム・分科会などの機会を通じて、「白米千枚田」や「伝承行事あえのこと」といった、輪島に現存する「世界農業遺産・能登の里山里海」の魅力を、広く国内外に情報発信していく。

【観光】

(域内向け)

・“がんばる輪島”応援事業

市民自らが輪島の応援観光大使となり、輪島を訪れる観光客へのおもてなし力の向上や、様々な輪島情報の発信を図ることで、輪島の魅力を強力にPRしていく。

(域外向け(国内))

・国内観光プロモーション事業

観光パンフレット・ポスター・チラシなどの紙媒体、WEB・SNS等の活用、首都圏をはじめとする大都市圏域への出向宣伝や物産展への参加などを通じて、輪島観光の魅力を全国に情報発信していく。

・のと里山空港・能登鉄道利用促進事業

輪島観光の起点となる、のと里山空港・能登鉄道を活用した企画旅行の造成、PR活動により、輪島観光の魅力を全国に情報発信していく。

・輪島ご当地グルメ情報発信事業

輪島観光の大きな魅力である「食」をテーマに、食材発掘、新メニュー開発、PR事業等を多面的に展開し、輪島ならではのご当地グルメの情報発信を推進する。

・禅文化による観光振興事業

輪島の門前町形成のもととなった總持寺祖院の歴史をはじめ、「禅文化」と観光を結び付けた観光プロモーションや誘客イベントの展開など、効果的な情報発信を図る。

・御陣乗太鼓紹介おもてなし事業

輪島に伝わる民俗芸能である「御陣乗太鼓」を、通年にわたり「輪島キリコ会館おもてなし広場」で披露。市民や観光客に広く輪島の伝統の魅力を情報発信に努める。

(海外向け)

・JAPAN TENT(ジャパン テント)輪島プログラムの開催

世界各国・地域から日本各地に留学している300人を超える留学生を石川県に招き、1週間のホームステイを通じて日本文化体験、国際交流親善を推進するイベントであるJAPAN TENT(ジャパン テント)輪島プログラムを企画運営し、輪島の観光・自然景観・食などの多方面にわたる魅力を海外の方に情報発信していく。

・海外向け観光プロモーション事業

多言語版観光パンフレット、海外向け観光ポスター、WEB・SNS等様々な情報発信媒体を活用して、海外に輪島の魅力をPRする。

【輪島塗】

(域内向け)

○普段使いの漆器宣伝活用事業

市内飲食店等の協力を得て、「能登井」をはじめ能登の山海の食の魅力を、「輪島塗」の器や箸とともに堪能できる機会を提供することで、普段使いの漆器の魅力を市民に理解して貰うとともに、広報宣伝を通じた販路拡大を図る。

○漆芸技術活用推進事業

文化財修復をはじめ、伝統的な漆工技術を活用して、伝統産業「輪島塗」の産業基盤の強化を図るとともに、セミナーや講習会等を通じて市民への啓蒙と情報発信を進める。

【文化財修復に関するセミナーの開催】 【技術、デザインに関するセミナーの開催】

(域外向け(国内))

○漆器普及宣伝事業

首都圏で開催される見本市等のイベントへの出展や、デパート・ショップ等への訪問活動による首都圏への販路開拓拡大活動を進めるとともに、普及宣伝用漆器の試作品製作や教科書掲載の拡大活動など、多面的な情報発信、広報活動を展開する。

○輪島塗技術再認識・普及事業

輪島塗技術の象徴となる作品「輪島塗地球儀」の制作、制作過程の記録、情報発信を通じて、輪島塗技術の保存と販路拡大を図る。

○石川県伝統産業合同見本市への参加出展

毎年東京で開催される「いしかわの伝統工芸フェア」への参加出展を通じて、首都圏への情報発信を図り、販路拡大に繋げる。

○ジャパン漆サミット日本漆器協同組合連合会全国大会への参加

全国の漆器産地が一堂に関する全国大会への参加を通じて、輪島塗の取組を国内全域に紹介することで、情報発信と販路拡大を図る。

(海外向け)

○漆器海外マーケット開拓支援事業

輪島漆器商工業協同組合や輪島市内漆器事業者とともに、海外見本市の出展参加など、海外マーケットの販路拡大に資する情報発信を進める。

○多言語パンフの作成、海外向け映像の制作

多言語の輪島塗紹介パンフレットや海外向け紹介映像を作成、制作し、様々な機会を通じて海外への情報発信を進める。

(3) 全体計画の普及展開性

(他の地域への普及展開性)

【能登の里山里海】

2011(平成23)年6月、国連食糧農業機関(FAO)主催の国際フォーラムにおいて、「能登の里山里海」が、「トキと共生する佐渡の里山」とともに国内で初めて世界農業遺産に認定された。これは、里山・里海を中心に守られてきた能登の持続的な農林水産業と一体的に維持・保存されてきた伝統的な農村文化の姿が、国内外から高く評価されたものである。

世界農業遺産に認定された能登地区では、石川県七尾市、輪島市、珠洲市、羽咋市、志賀町、中能登町、穴水町、能登町、宝達志水町の4市5町からなる「能登地域GIAHS推進協議会」を組織し、様々な事業を通じて「能登の里山里海」の知名度を高める活動を進めてきた。また、石川県においても、総額50億円を超える「いしかわ里山創生ファンド」を創設し、その魅力を国内外に発信している。

「能登の里山里海」の持続可能な保全継承について、SDGsの目標・ターゲットと繋がり、さらなる取り組みを推進することで、他の地域への普及展開が図られることが期待される。

【観光】

輪島市の観光は、「朝市」や「白米千枚田」に代表される自然景観、伝統文化や食文化、祭りなど、多様な資源に溢れている。2003(平成15)年7月の能登空港開港を契機に、広域観光客誘致を柱として、従来の「能登半島観光協会」を拡大、再編する形で「能登半島広域観光協会」が設立され、輪島市もその中心メンバーとして参画している。

また、輪島市は、京都や金沢と並び4つの「重要伝統的建造物群保存地区」を有する山口県萩市と1990(平成2)年に姉妹都市提携を結び、輪島市の「重要伝統的建造物群保存地区」である黒島地区の整備等のあり方について交流を深めてきた。

「新型コロナウイルス感染症」の拡大により、インバウンドや首都圏からの誘客が見込めない中、「新しい生活様式に対応した持続可能な観光のあり方」について、SDGsの理念を取り入れ、これら関係都市と連携していくことで、同じ課題を抱える他の地域への普及展開が図られることが期待される。

【輪島塗】

漆器は「japan」とも呼ばれており、我が国が世界に誇る伝統工芸の一つである。中でも「輪島塗」は、蒔絵や沈金の加飾技術に優れ、その技術は重要無形文化財の指定を受けている。市内には、漆芸専門の美術館である「輪島漆芸美術館」、情報発信拠点施設である「輪島塗会館」や「輪島工房長屋」、担い手育成施設である「石川県輪島漆芸技術研修所」があり、それぞれ「輪島塗」の技術保存・後継者育成・情報発信に努めている。

「漆器」とは本来、天然の漆素材を利用した工芸品であるとともに、漆の抗菌作用など、環境面、衛生面でも優れた器具である。

日本漆器協同組合連合会に所属する全国の産地組合をはじめ、漆器に関わる多くの団体等が、SDGsの理念のもと、環境に優しい漆の魅力を次世代に伝え、持続可能な生産消費形態を確保する取り組みを進めることで、他の産地への普及展開が図られることが期待される。

1.3 推進体制

(1)各種計画への反映

1. 第2次輪島市総合計画（後期計画） 2022年2月改定済

輪島市では、現行の「第2次輪島市総合計画（前期計画）」の計画期間が2021年度に終了することを踏まえ2022年度から2026年度までを計画期間とする「第2次輪島市総合計画（後期計画）」を策定したところである。

策定にあたり、輪島市の行政運営全体にSDGsの手法を取り入れ、総合計画に掲げる目標とSDGsが掲げる目標との関連性を具体的に明示するため、計画全体を俯瞰する一覧表として整理するとともに、各施策にSDGsのアイコンを付すことで、輪島市の地方創生に繋がる「自治体SDGsの推進」に戦略的に取り組めるよう、計画に反映させる。

2. 輪島市まち・ひと・しごと創生総合戦略 2019年度改定済

「第2次輪島市総合計画（後期計画）」の策定にあたり、2019（令和元）年度に改定した「輪島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる目標、施策、KPI（重要業績評価指標）等を反映し、総合計画との一本化を図ることで、輪島市の地方創生に繋がる「自治体SDGsの推進」にも反映させることとしている。

併せて、国の、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に新たに掲げられている、「地方創生SDGsの実現などの持続可能なまちづくり」という横断的な目標を、輪島市の総合戦略全体にも反映させたものである。

3. 輪島市新交通ネットワーク計画

2024年度までを計画期間とする「輪島市交通ネットワーク計画」においては、「みんなでつなぐ公共交通の輪」をスローガンに、「サービス水準向上とローコスト運行への転換」、「持続可能な公共交通への転換」を柱とした施策を推進している。来年度以降にも予定されている計画改定にあたっては、SDGsの目標「住み続けられるまちづくりを」のターゲットである、「交通弱者への公共交通機関の拡大」、「持続可能な輸送システムへのアクセス」を反映させたものとする。

4. 輪島市都市計画マスタープラン

2030年までを計画期間とする「輪島市都市計画マスタープラン」においては、地域別構想として、輪島市域を4地区に分類し、それぞれの地区のあるべき姿を描いている。

「輪島中央地区」においては「歴史的街並みや伝統産業との調和」、「輪島西部地区」においては「自然環境と調和した安全で快適な街並みの形成」、「輪島東部地区」においては「自然と調和した里山里海の継承」、「輪島南部地区」においては「自然環境に包まれた良好な集落景観の保存」と、それぞれにSDGsの理念が盛り込まれており、今後の改定作業の中で、より明確に計画に反映させていく。

5. 輪島市立地適正化計画 2022 年度改定予定

2035 年までを計画期間とする「輪島市立地適正化計画」においては、市街地及び外縁部への都市機能の集約と中心拠点における利便性確保のため、居住誘導区域を 3 区域、都市機能誘導区域を 2 区域設定している。来年度の改定作業の中で、これらの区域への SDGs の考え方を反映させていく。

6. 輪島市新エネルギー計画

「輪島市新エネルギー計画」は、新エネルギー、再生可能エネルギーに対する国民的関心の高まりを受け、輪島市民に「新エネルギーとは何か」を分かりやすく知ってもらうとともに、輪島市の地域特性を加味した上で、太陽光、風力、バイオマス等の新エネルギー導入に当たっての課題、利点、導入コスト等を検討するとともに、市民、企業、行政それぞれの役割を明確にすることを目的に、2012(平成 24)年に策定された。2021(令和 3)年までの計画期間が終了し、次期計画の改定作業を進める中で、SDGs の理念を色濃く反映させ、持続可能な再生可能エネルギー、クリーンエネルギー導入を進めていく。

7. 輪島市黒島地区伝統的建造物群保存地区防災計画 2022 年 3 月策定

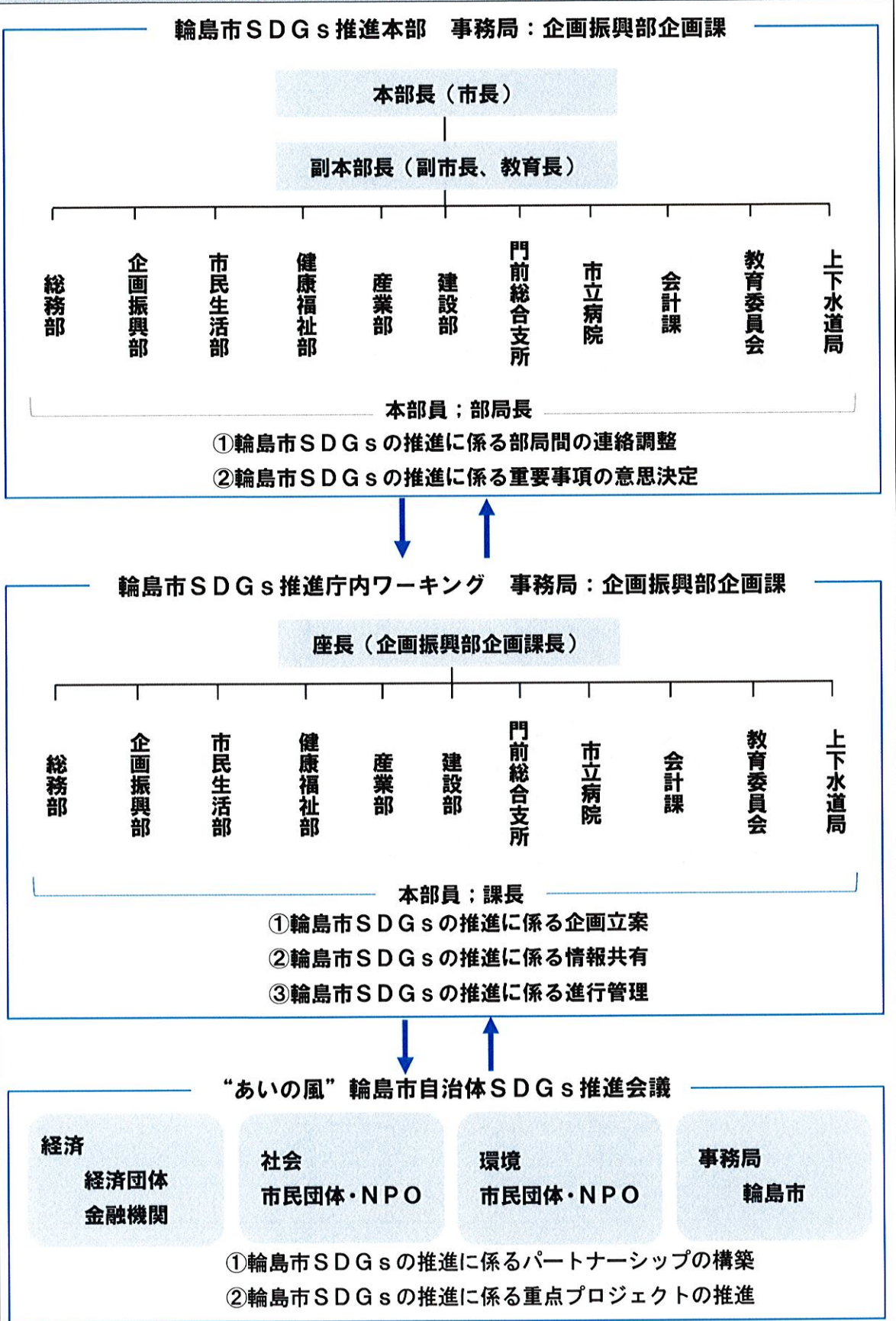
輪島市黒島地区重要伝統的建造物群保存地区は、江戸後期から明治中期にかけて北前船の船主や船員の居住地として栄えた集落であり、独特の平面形式や外観を見せる町家等が町並みを構成し、周辺の自然環境と一体となって歴史的風致を形成している地区として、2009(平成 21)年に国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されている。

本地区は、江戸期から明治期にかけての度重なる大火と 2007(平成 19)年の能登半島地震により大きな被害を受けたが、その都度、復興が進められてきている。

2020(令和 2)年度～2021(令和 3)年度の 2 か年で、火災や地震などの災害から黒島地区住民の生命・財産を守り、歴史的な町並みを後世に保存・継承していくため、SDGs の理念を反映させた防災計画づくりを進めていく。



(2) 行政体内部の執行体制



(3)ステークホルダーとの連携

1. 域内外の主体

「第2次輪島市総合計画」策定に中心的に関わった「輪島市総合計画審議会」のメンバー等を主体に、輪島市域内外の多様なステークホルダーが各々の役割を果たし、SDGs未来都市にふさわしい輪島市の持続可能な発展を実現する。

(経済・環境)

(1) 輪島商工会議所・門前町商工会・一般社団法人輪島青年会議所

輪島地域の総合的経済団体である「輪島商工会議所」及び「門前町商工会」、若手経済人の活動拠点である「一般社団法人輪島青年会議所」が中心となり、豊かな輪島の地域づくりと商工業の振興を通じてSDGsの理念実現に取り組む。特に、輪島市の未来を担う人財の集まりである「一般社団法人輪島青年会議所」は、輪島市SDGs未来都市の実現に中核的役割を担っていく。

(2) 一般社団法人輪島市観光協会

輪島市の観光を担う中核団体である「一般社団法人輪島市観光協会」は、特に、コロナ禍による新しい生活様式に対応した観光振興のあり方を模索し、推進していくことを通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

(3) 輪島漆器商工業協同組合

世界に冠たる輪島塗産業を支える団体である「輪島漆器商工業協同組合」は、輪島塗産業の発展と技術の継承、後継者育成を通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

(4) おおぞら農業協同組合・能登森林組合輪島支所・石川県漁業協同組合輪島支所

輪島市の農林漁業産業を支える団体である「おおぞら農業協同組合」、「能登森林組合輪島支所」、「石川県漁業協同組合輪島支所」は各々、「世界農業遺産 能登の里山里海」のかけがえのない資源を未来に引き継いでいく活動を通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

(5) 輪島市銀行会

輪島市内に店舗を構える金融機関の集まりである「輪島市銀行会」は、金融・財政面での支援を通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

(6) 白米千枚田の保全活動に協力する企業会員等

白米千枚田の保全活動に携わる企業会員や200組のオーナー会員等は、白米千枚田の景観を後世に引き継いでいくことを通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

(社会)

(1) 輪島市社会福祉協議会

「ふだんの 暮らしを しあわせに」をテーマに、誰もが自分らしく、安心安全で暮らせるまちづくりを推進する「輪島市社会福祉協議会」は、地域福祉活動の増進を通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

(2) 輪島市婦人団体協議会

輪島市の女性の社会活動を担う「輪島市婦人団体協議会」は、多面にわたる地域の婦人活動の推進を通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

(学識)

(1) 包括連携協定締結大学

輪島市と包括連携協定を締結している、石川県内の「北陸大学」及び「金沢学院大学」、県外の「鶴見大学」(神奈川県横浜市)、「東京農業大学」(東京都ほか)、「千葉大学」(千葉県内)は、高等教育機関としての様々な研究教育活動等を通じて、輪島市SDGs未来都市の実現にその役割を果たしていく。

2. 国内の自治体

(1) 山口県萩市(輪島市の姉妹都市)

輪島市の姉妹都市である「山口県萩市」とは、同じ観光都市として、コロナ禍による新しい生活様式に対応した、持続可能な観光振興についての連携協力体制を一層推進し、輪島市はその活動に基づき輪島市SDGs未来都市の実現を目指していく。

(2) 奥能登広域圏事務組合

輪島市、珠洲市、能登町、穴水町の2市2町で構成する「奥能登広域圏事務組合」は、広域ネットワークの整備、共同処理システムの形成など、圏域市町の一層の連携と協力を通じた活力に溢れる奥能登圏域形成を目指し、輪島市はその活動に基づき輪島市SDGs未来都市の実現を目指していく。

(3) 能登地域GIAHS推進協議会

「世界農業遺産 能登の里山里海」の認定のため、地元市町で組織する団体として活動してきた「能登地域GIAHS推進協議会」は、「能登の里山里海」を構成する様々な資産の保全継承を推進し、輪島市はその活動に基づき輪島市SDGs未来都市の実現を目指していく。

3. 海外の主体

(1) 国際連合食料農業機関

「国際連合食料農業機関」は、世界の食料・農林水産物に関する情報の収集・伝達、調査分析等に携わる活動を推進している。輪島市は同機関の活動理念に基づき、輪島市SDGs未来都市の実現を目指していく。

(4) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

「輪島市SDGs未来都市計画」策定後の実績についての評価・検証は、PDCAサイクルに基づき、

「Plan」(計画策定) ⇒ 「Do」(各施策の実施) ⇒ 「Check」(施策の評価・検証) ⇒ 「Action」(改善策の検討)

の手順で実施し、行政体内部及びステークホルダーとの連携協力により常時見直しを進めることで、自律的好循環の形成に努める。

具体的には、以下の2点について制度を構築していく。

○行政体内部の制度の構築による自律的好循環の形成

行政体内部の制度の構築による自律的好循環の形成としては、「輪島市自治体SDGs推進庁内ワーキング」における進行管理の中で見直しを行った施策の進捗状況について、「輪島市自治体SDGs推進本部」での連絡調整及び意思決定を図っていくという作業を定期的実施することで、自律的好循環の形成に努める。

○ステークホルダーとの連携協力体制の制度構築による自律的好循環の形成

経済・社会・環境各分野のステークホルダーで構成する「“あいの風”輪島市自治体SDGs推進会議」において、「輪島市SDGsの推進に係るパートナーシップの構築」、「輪島市SDGsの推進に係る重点プロジェクトの推進」の観点から、それぞれ定期的に施策の進捗状況について評価・検証し、行政体内部に意見具申する制度を構築することで、自律的好循環の形成に努める。

2. 自治体SDGsモデル事業（特に注力する先導的取組）

2.1 自治体SDGsモデル事業での取組提案

(1) 課題・目標設定と取組の概要

(自治体SDGsモデル事業名)

「能登の里山里海」・「観光」・「輪島塗」 3つの“輪島ブランド”の連携による
「SDGs未来都市・輪島」の実現

(課題・目標設定)

ゴール2 ターゲット2、3

ゴール6 ターゲット1、6

ゴール8 ターゲット5、6、8、9

ゴール11 ターゲット4、b

ゴール14 ターゲット2

ゴール15 ターゲット2、4、9

ゴール17 ターゲット17




- ①ゴール2の達成のため、輪島市の農林水産資源の流通販路拡大に取り組み、小規模食料生産者の生産性と所得の増大を進める。
- ②ゴール6の達成のため、輪島朝市について、国際基準の衛生管理手法「ハサップ(HACCP)」に適合する衛生管理設備への改修を進め、適正な衛生施設へのアクセスを実現する。
- ③ゴール8の達成のため、新型コロナウイルス感染症の拡大による「新しい生活様式」に対応する新たな「輪島市新観光ビジョン」を策定、持続可能な観光業を推進するための政策を立案する。
- ④ゴール11の達成のため、輪島市の文化遺産や歴史的街並みの保存継承事業を進め、輪島市独自の歴史や文化が次世代に繋がる、持続可能で住み続けられるまちづくりに貢献する。
- ⑤ゴール14の達成のため、輪島海女漁水産資源の保全対策を推進し、輪島の海の豊かさを守り、海洋及び生態系の回復のための取り組みを行う。
- ⑥ゴール15の達成のため、輪島の食文化のさらなる育成、地産地消の推進と食品ロスの軽減につながる様々な取組を実施し、農地や森林などの陸の豊かさを守っていく。
- ⑦ゴール17の達成のため、官民が協力して、輪島塗の後継者育成、若手作家等の活動支援に取り組み、パートナーシップにより輪島塗産業を活性化していく。

(取組概要)

輪島市が将来にわたって奥能登の中心的役割を果たし、歴史を積み重ねていくためには、白米千枚田に代表される世界農業遺産「能登の里山里海」、朝市を拠点とする「観光」、世界に冠たる「輪島塗」、これら三つが連携し、持続可能な発展をしていくことが不可欠であり、SDGsの理念のもと、その実現に取り組んでいく。

③ 環境面の取組

ゴール、 ターゲット番号	KPI	
 2,6 4 4	指標：水道普及率	
	現在(2021年3月)：90.9%	2024年：94.0%
	指標：下水道普及率	
	現在(2021年3月)：76.4%	2024年：80.0%

①—1 輪島の陸の豊かさを守る農業の推進と自然生態系の保護

・環境保全型農業の推進と有害鳥獣対策

輪島の陸の豊かさを次世代に引き継ぐため、自然環境保全に資する環境保全型農業の推進を図るとともに、有害鳥獣の駆除を進め、中山間地域の自然生態系の保護に努める。

①—2 輪島の豊かな海と水産資源の保全、伝統海女漁の保存継承

・輪島海女漁水産資源保全対策

「輪島の海女漁の技術」の保存継承に向け、海洋漂着物等の対策をはじめとする自然保護活動を推進するとともに、アワビやサザエの外敵となるヒトデやタコの駆除活動に取り組む。

①—3 輪島朝市の国際基準に沿った衛生関連設備の改修による持続可能な管理

・輪島朝市観光と食文化の継承

国際基準の「ハサップ(HACCP)」に適合する衛生管理設備への改修を進めることで、安全安心・清潔な環境を整備し、輪島朝市の伝統を将来に渡って守り続ける。

①—4 世界農業遺産能登の里山里海を象徴する白米の千枚田の景観保全

・白米千枚田の景観保全の取組や啓発イベントの開催

耕作支援、情報発信、景観保全、オーナー運営制度などの取組を進めるとともに、啓発イベントの開催等を通じ、能登の里山里海を象徴する白米千枚田の環境保全を図る。

①—5 輪島市の文化遺産や歴史的街並みの保護・保全努力の強化

・輪島市文化遺産・歴史的街並み保全継承

輪島市黒島地区重要伝統的建造物群保存地区をはじめ、輪島市に残る文化遺産や歴史的街並みの保全継承により、持続可能な都市環境を後世に受け継ぐ。

(事業費)



(3)三側面をつなぐ統合的取組

(3-1)統合的取組の事業名(自治体SDGs補助金対象事業)

(統合的取組の事業名)

**「能登の里山里海」・「観光」・「輪島塗」三位一体のおもてなしによる
持続可能な「輪島ツーリズム」実践事業**

(取組概要)

「能登の里山里海」、「観光」、「輪島塗」の三つが連携し、SDGsの理念のもと、

1. 輪島の海と陸の豊かさが守られ
2. 雇用の創出と歴史の保全・産品販促に繋がる持続可能な観光業が促進され
3. 様々な分野で伝統を継承し未来へと繋げる人財が育成される

これら三つのゴールを目指す、「輪島ツーリズム」を実践する。

(事業費)



(統合的取組による全体最適化の概要及びその過程における工夫)

輪島市がSDGsの掲げる理念のもと、組織全体として最適で、最も高いパフォーマンスを発揮できる状態である「全体最適化」を実現するためには、まずは、他の地方自治体にはない輪島市の魅力を理解し、再認識し、共有することが重要である。

輪島市の魅力とは何か。それは、世界農業遺産に認定されている「能登の里山里海」、朝市や白米千枚田に代表され、国内外から多くの人々が訪れる「観光」、日本を代表する伝統工芸でありJapanとも呼称される漆芸技術の中でも、とりわけ全国漆器産地の中で重要無形文化財の指定を受けている「輪島塗」の3つである。

これら3つの輪島の魅力・財産が、お互いに刺激し合い、高め合い、将来にわたって持続可能な「輪島ツーリズム」として昇華することで、トレードオフの緩和とシナジー効果の発揮が実現し、そのことが、さらに国内外の多くの人々を惹きつけ、関係人口を拡大していく、こうした統合的取組こそ、将来に渡る輪島市の全体最適化に繋がるものである。

そのための工夫として、3つの魅力の継承発展に携わる関係者が、経済⇄環境⇄社会という循環の中での各々の役割を認識し、議論し、具体的に提示し、3つの側面が調和するように努めていく組織体を構成していく。

(3-2)三側面をつなぐ統合的取組による相乗効果等(新たに創出される価値)

(3-2-1)経済⇄環境

(経済→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標:年間観光入込者数	
現在(2021年3月):132万人	2024年:170万人

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標:年間外国人入込者数	
現在(2021年3月):24,000人	2024年:50,000人

新型コロナウイルス感染症の世界的な流行により、「観光」の形態も大きく変容している。インバウンドや国内大都市圏からの誘客拡大が見込めない中、新しい生活様式、いわば「ニューノーマル」に対応した持続可能な観光のあり方を考える上で、これまでのような入込者数のみに焦点を当てるのではなく、観光客自らが訪問地である輪島市の環境を守り育てていくという持続可能な「輪島ツーリズム」を実践、将来にわたって輪島市の持続可能な発展を支援していくという相乗効果の発揮と新たな価値の創造が期待できる。

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標:地域資源を活かした商品開発件数	
現在(2021年3月):42件	2024年:50件

将来にわたって持続可能な「輪島ツーリズム」の実践にあたっては、輪島という土地ならではの地域資源を活かした新たな「食」、「土産品」などの商品を開発し、地産地消を推進していくことで、ひいては輪島市の環境保全に繋がるという相乗効果の発揮と新たな価値の創造が期待できる。

(環境→経済)

KPI (経済面における相乗効果等)	
指標:森林整備の維持管理費	
現在(2021年3月):4億6千万円	2024年:6億円

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：漁場環境の保全による漁獲高	
現在（2021年3月）：10,148t	2024年：11,000t

輪島市の大きな財産は、能登半島に広がる広大な森林と日本海の豊かな漁場の存在である。こうした森林資源をはじめとする「陸の豊かさ」と、多くの海洋資源に代表される「海の豊かさ」を守りながら、将来にわたって持続可能な「輪島ツーリズム」を実践していくことは、輪島を訪れる大勢のお客様にとっても今までにはない旅の魅力となり、大きな経済効果を生み出すという相乗効果の発揮と新たな価値の創出が期待できる。

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：国・県・市指定文化財件数	
現在（2021年3月）：331件	2024年：336件

輪島市に今も現存する貴重な文化財を将来にわたって保存し、先人が継承した財産を次の世代に繋いでいくという地域づくり、変化に富む海岸線とみどり豊かな丘陵地に抱かれた、奥能登を代表する独自の景観を保全し、次の世代に繋いでいくという地域づくり、これらの取組は、輪島を訪れる方の目的として大きな魅力に繋がっていく。伝統文化や景観を守りながら、将来にわたって持続可能な「輪島ツーリズム」を実践することは、輪島のブランド力の向上など、大きな経済効果を生み出すという相乗効果の発揮と新たな価値の創出が期待できる。

(3-2-2) 経済⇄社会

(経済→社会)

KPI（社会面における相乗効果等）	
指標：輪島塗年間生産額	
現在（2021年3月）：26億円	2024年：30億円

輪島塗に代表され、輪島市の基幹産業である「漆器産業」は、輪島市を訪れる観光客にとっても旅の大きな魅力となっており、その観光消費額は輪島市に大きな経済効果をもたらしている。この「漆器産業」を将来にわたって守り育てながら、持続可能な「輪島ツーリズム」を実践していくことは、社会全体への輪島塗のさらなる認知度向上、ひいては若手後継者の育成という、相乗効果の発揮と新たな価値の創出が期待できる。

KPI（社会面における相乗効果等）	
指標：年間移住者数	
現在（2021年3月）：40人	2024年：50人

KPI（社会面における相乗効果等）	
指標：新規出店補助金交付件数	
現在（2021年3月）：9件	2024年：15件

将来にわたって持続可能な「輪島ツーリズム」の推進は、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる「地方創生SDGsの実現」に寄与することは勿論のこと、「輪島市という地域の特性に応じた稼ぐ地域の実現」、「多様な人々が活躍する輪島市における地方創生の推進」にも繋がり、大きな経済効果が期待できる。こうした流れの中、輪島市への移住や新規出店はもとより、輪島市の持続可能な発展に継続的に様々な形で携わっていただく方の増加、関係人口の創出・拡大という、社会面における相乗効果の発揮と新たな価値の創出が期待できる。

（社会→経済）

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：地域コミュニティ団体数	
現在（2021年3月）：22団体	2024年：25団体

KPI（経済面における相乗効果等）	
指標：地域コミュニティ参加者数	
現在（2021年3月）：7,832人	2024年：10,000人

将来にわたって持続可能な「輪島ツーリズム」の推進のためには、それを下支えする地域コミュニティの育成確保が欠かせない。こうした多様な人材が活躍し、輪島市の活性化の一翼を担うことで、「能登の里山里海」に代表される地域資源や、「輪島塗」に代表される地域産業が将来に渡って持続発展し、地域競争力が強化されるといふ、相乗効果の発揮と新たな価値の創出が期待できる。

(3-2-3) 社会⇔環境

(社会→環境)

KPI (環境面における相乗効果等)	
指標: 地域貢献見守り事業者数	
現在(2021年3月): 72 事業者	2024年: 73 事業者

「能登の里山里海」保全に携わる第1次産業従事者、「輪島塗」に代表される「漆器産業」に携わる第2次産業従事者、「観光・サービス業」に携わる第3次産業従事者、それぞれが、地域貢献・地域福祉に配慮した働きやすい就業環境の下で、「輪島ツーリズム」の推進に努めることで、安心して働ける環境の実現が、将来にわたって持続可能な輪島市の発展に繋がるといふ相乗効果の発揮と新たな価値の創出が期待できる。

(環境→社会)

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 農業就業者数	
現在(2021年3月): 1,574 人	2024年: 1,580 人

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 林業就業者数	
現在(2021年3月): 178 人	2024年: 180 人

KPI (社会面における相乗効果等)	
指標: 漁業就業者数	
現在(2021年3月): 506 人	2024年: 510 人

SDGsの目標のうち、「海の豊かさを守ろう」、「陸の豊かさを守ろう」の実現のためには、何といても、農林漁業従事者が率先して、豊かな環境を守る努力を続けていく取組が欠かせない。将来にわたって持続可能な「輪島ツーリズム」が推進されることで、特に若い世代の農林漁業後継者の確保にも繋がるといふ相乗効果の発揮と新たな価値の創出が期待できる。

(4) 多様なステークホルダーとの連携

【再掲:位置付け・役割については要約して記載】

1. 域内外の主体

(経済・環境)

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
輪島商工会議所・門前町商工会	地域の経済団体として、総合的な推進の役割
一般社団法人輪島青年会議所	若手経済人として、輪島市SDGs推進の中核的役割
輪島漆器商工業協同組合	輪島塗の振興、技術継承支援、後継者育成
おおぞら農業協同組合 能登森林組合輪島支所 石川県漁業協同組合輪島支所	輪島市農林水産資源の保全対策、流通販路拡大
輪島市銀行会	輪島市SDGs推進のための金融・財政面での支援
白米千枚田の保全活動に協力する企業会員等	白米千枚田の保全活動をはじめとする輪島市の文化遺産・歴史的景観の保全

(社会)

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
輪島市社会福祉協議会	地域福祉活動を通じた輪島市SDGs推進支援
輪島市婦人団体協議会	多面にわたる婦人活動を通じた輪島市SDGs推進支援

(学識)

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
包括連携協定締結大学	高等教育機関としての研究教育活動を通じた輪島市SDGsの推進支援

2. 国内の自治体

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
山口県萩市(姉妹都市)	新しい生活様式に対応した持続可能な観光振興助言
奥能登広域圏事務組合	圏域市町の連携協力を通じた輪島市SDGs推進支援
奥能登地域GIAHS推進協議会	地元組織で構成する団体として「世界農業遺産能登の里山里海」の保全継承を通じた輪島市SDGs推進支援

3. 海外の主体

団体・組織名等	モデル事業における位置付け・役割
国際連合食料農業機関	世界の食料・農林水産物の情報収集・調査分析等を通じた「世界農業遺産能登の里山里海」保全継承へのアドバイス

(5) 自律的好循環の具体化に向けた事業の実施

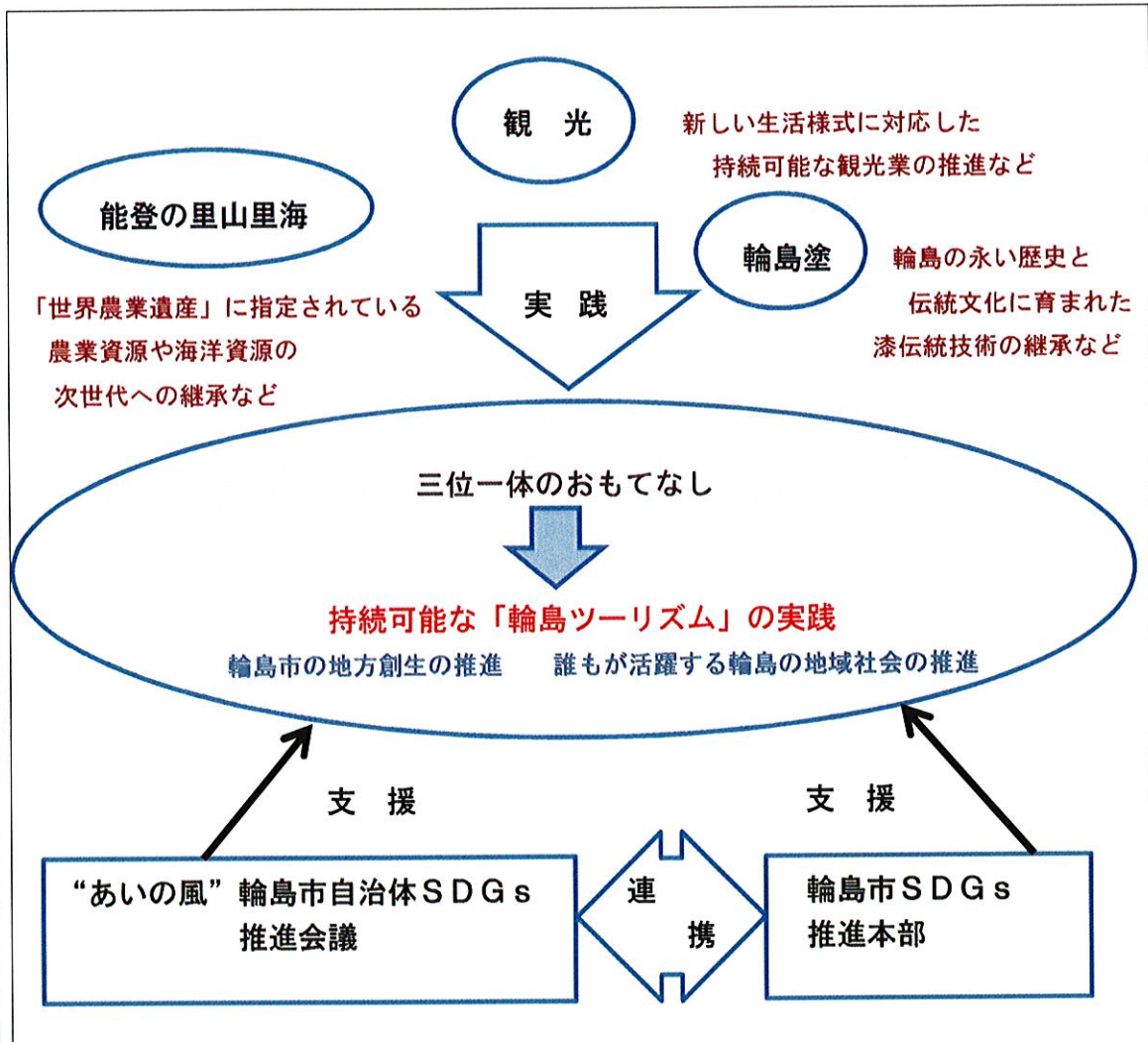
(事業スキーム)

輪島市を象徴する「能登の里山里海」、「観光」、「輪島塗」それぞれのテーマについて、お互いが刺激し合い、好循環を具体化していく事業を実施する。

- ①「能登の里山里海」については、国の重要無形民俗文化財である「輪島海女漁」の技術の保存継承をはじめ、「世界農業遺産」に選定されている農業資源や能登の海洋資源を次世代に継承する取組の実施により、輪島市を訪れる観光客の増加や、輪島塗の普及促進などの好循環の具体化に繋がる。
- ②「観光」については、コロナ禍による新しい生活様式に対応した持続可能な観光業の推進に繋がる取組の実施により、能登の里山里海の農林水産資源の保全、次世代を見据えた若手輪島塗後継者の育成などの好循環の具体化に繋がる。
- ③「輪島塗」については、輪島の豊かな自然と伝統文化に育まれた漆伝統工芸技術の継承に取り組むことで、能登の里山里海の魅力の内外への発信、新たな視点による観光の掘り起こしなどの好循環の具体化に繋がる。

これら3つのテーマについて、「“あいの風” 輪島市自治体SDGs推進会議」と「輪島市SDGs推進本部」が車の両輪となって推進していくことで、第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げられている、【多様なひとびとの活躍による輪島市地方創生の推進】、【誰もが活躍する輪島市の地域社会の推進】を具現化することができる。

【事業スキームの図】



(将来的な自走に向けた取組)

「能登の里山里海」の保全と次世代への継承に携わる、農林水産業従事者をはじめとする関係事業者、新しい生活様式における「観光」に取り組む、宿泊、飲食、交通をはじめとする関係事業者、さらには、「輪島塗」の継承発展に努める作り手と売り手をはじめとする関係事業者それぞれが、役割分担と連携に努めながら、持続可能な「輪島ツーリズム」の実践に取り組むことで、ひいては「輪島市の地方創生の推進」、「誰もが活躍する輪島の地域社会の推進」が実現する。

そのためには、民間団体等で組織される「“あいの風” 輪島市自治体SDGs推進会議」と行政の「輪島市SDGs推進本部」が車の両輪となり、官民連携のもと人的財政的支援を果たしていくことが肝要である。

■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■	■	■	■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■	■	■	■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■	■	■	■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■	■	■	■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■	■	■	■■■■■■■■■■
■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■ ■■■■■■■■■■	■	■	■■■■■■■■■■

(民間投資等)

【ふるさと納税 “がんばる輪島”応援寄附金】

輪島市を応援しようとする方から寄附を募り、「魅力あるふるさと輪島づくり」を行うことを目的に、輪島市は“がんばる輪島応援寄附条例”を制定した。4億円を目標額として、「自然環境の保全」や「伝統工芸及び地域文化の保存及び継承」をはじめとする様々な事業に寄付金を募っている。

【白米千枚田オーナー制度】

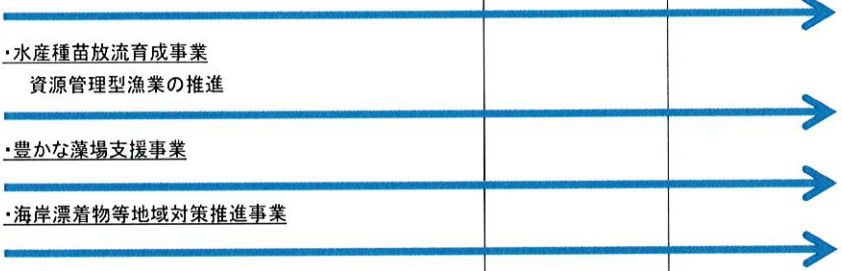


白米千枚田を保全するため、企業(5万円)と個人(2万円)から会費を募り、「白米千枚田オーナー制度」を運営している。会員約200名のうち、約半数が首都圏の会員であり、千枚田の景観保全のみならず、地域と都市の交流、特産物販売による収入増加、雇用の創出による地域活性化と観光誘客に大きく寄与している。

(8)スケジュール

	取組名	2022 年度	2023 年度	2024 年度
統合	持続可能な輪島観光の 将来像策定 ①輪島市新観光ビジョン策定 ②輪島市 SDGs 未来都市 マップ製作	①新しい生活様式に対応した新たな観光ビジョンの策定 ②「輪島市 SDGs未来都市計画」に掲げる施設等のマップ を製作し、ビジュアル化	実行計画策定	
統合	輪島の食文化の継承と 新たな“輪島めし”の開発 ①輪島朝市衛生関連施設 改修事業 ②学生による、未来の “輪島めし”創作コンテスト	①輪島朝市施設の国際衛生基準に沿った改修支援 ②輪島の未来を担う学生を中心とした“輪島めし” コンテストの開催		
統合	DXを活用した漆伝統工芸 技術の継承 ①現実工房★仮想工房 ②漆器海外マーケット開拓事業	①漆器職人の技をDXによる仮想工房と現実工房の 両面で紹介 ②DXを活用した様々なメディアによる漆器海外マーケット の開拓		

統合	輪島の歴史資産の保存活用 ①黒島重伝建地区「角海家」の保存活用 ②禅の里づくり推進事業	①黒島重伝建地区の天領角海家の保存活用計画策定	建造物修理修復	一般公開	→
		②開創 700 年を迎えた大本山總持寺を拠点とした「禅の里づくり」推進事業			→
経済	①—1 輪島市農林水産資源の流通販路拡大	・ <u>農林水産物ブランド化推進・地産地消推進事業</u> 山菜や奥能登原木しいたけなど、ブランド品目の生産拡大や学校等での食育推進など			→
		・ <u>多面的機能を支える活動や地域資源の質的向上支援</u> 地域共同で行う多面的機能を支える活動や地域資源の質的向上を図る活動を支援			→
		・ <u>中山間地域農業生産活動の維持</u> 中山間地域等の生産条件の不利を是正し、農業生産活動を将来に向けて維持			→
		・ <u>新規農業者育成、次世代人材への投資</u> 特に 50 歳未満の新規農業者の育成			→

社会	①—2 輪島の「食」を活用した地産地消の推進と新たな地域ブランドの確立	・“がんばる輪島” 応援推進事業 ふるさと納税の拡大、移住定住者など関係人口増加起業や新規出店の支援		
		・大学連携推進、高校魅力化プロジェクト 包括連携協定大学との交流、市内県立高校魅力向上		
		・地域おこし協力隊事業 「食」などをキーワードに輪島の活性化に協力		
		・輪島・新ご当地グルメ開発事業 市内小中学生や高校大学生がメニュー考案に一役		
社会	①—3 マテリアルリサイクル施設整備計画推進事業	・マテリアルリサイクル推進施設整備計画等策定事業 資源ごみを選別・減容する施設の基本計画策定	・実施計画	・本体工事
環境	①—1 環境保全型農業の推進と有害鳥獣対策	・環境保全型農業生産活動支援事業 化学肥料・農薬の低減など自然環境の保全に資する農業生産活動の支援		

環境	①—2 輪島海女漁水産資源 保全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・海女漁文化保存振興事業 ・水産種苗放流育成事業 資源管理型漁業の推進 ・豊かな藻場支援事業 ・海岸漂着物等地域対策推進事業 		
環境	①—3 輪島朝市観光と食文化の 継承	<ul style="list-style-type: none"> ・輪島朝市の個店出店支援による食文化継承 		
環境	①—4 白米千枚田の景観保全の 取組や啓発イベントの開催	<ul style="list-style-type: none"> ・白米千枚田景観保全事業 白米千枚田景勝保存協議会やオーナー制度による 企業・団体・個人等と協力し景観保全 ・白米千枚田PRイベント開催事業 「白米千枚田あぜのきらめき」イベントの開催 		

2022年度SDGs未来都市全体計画提案概要(提案様式2)

提案全体のタイトル:「あい」の風が育む「能登の里山里海」・「観光」・「輪島塗」

— 三位一体の持続可能な発展を目指して —

提案者名:石川県輪島市

全体計画の概要:「あい」の風は、日本海の沖合から吹く風のこと、あいの風を帆に受け日本海を往来する北前船が、輪島のまちに活力と文化の多様性をもたらし、「能登の里山里海」、「観光」、「輪島塗」の3つの特性を育ててきた。この3つの「輪島らしさ」を三位一体のSDGs施策として推進、次世代に繋がる持続可能な発展を目指す。

地域の実態

世界農業遺産「能登の里山里海」に代表される豊かな自然に恵まれた輪島市は、人口・世帯数とも減少傾向が続いており、まちの活力低下が懸念されている。輪島市では、2022年度から2026年度までを計画期間とする「第2次輪島市総合計画(後期計画)」を策定し、輪島ブランドを全国に発信する、奥能登の中核都市にふさわしいまちづくりを推進することとしている。

2030年のあるべき姿

輪島市の2030年のあるべき姿は、2006年に策定した「第1次輪島市総合計画」から不変である。それは、「あい」の風が育む、快適・活気・夢のまちという言葉で表現されている。市民が安心・安全で「快適」に暮らし、多くの人が集い、「活気」に溢れ、あらゆる世代が「ゆめ」を描ける、2030年の輪島市を目指している。

2030年のあるべき姿の実現に向けた優先的なゴール・ターゲット

(経済)都市機能の集積の促進、輪島の地域ブランドの発信、農林水産業の振興
(社会)ジェンダーフリーな社会の実現、地域で支え合う福祉の増進、地域医療の充実
(環境)災害に強い安全なまちづくりの推進、ごみの抑制とリサイクルによる循環型社会の形成



自治体SDGsに資する取組

- 世界農業遺産「能登の里山里海」に代表される、自然環境の保全と自然の恵みの継承
- 輪島の魅力を際立たせる歴史的景観の保全活用
- 「朝市」や「白米千枚田」に代表される観光資源を活用した、多様なツーリズムの振興
- 世界に誇る「輪島塗」を生産する漆器産業の強化

情報発信

- 【域内】“がんばる輪島”おもてなし事業
普段使いの漆器宣伝活用事業 など
- 【国内】輪島里山里海まつりの開催
禅文化による観光情報発信事業 など
- 【海外】JAPAN TENT輪島プログラムの開催
輪島塗海外マーケット開拓発信事業 など

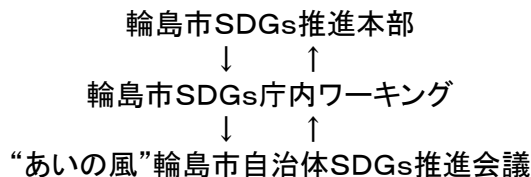
普及展開性

- 【能登の里山里海】里山里海を中心に守られてきた持続的な農林水産業と農村文化の普及展開
- 【観光】コロナ禍による新しい生活様式に対応する持続可能な観光のあり方についての普及展開
- 【輪島塗】全国16の漆器産地組合をはじめ、多くの団体が持続可能な生産消費形態の普及展開

各種計画への反映

- ・第2次輪島市総合計画(後期計画)
- ・輪島市まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・輪島市新交通ネットワーク計画
- ・輪島市都市計画マスタープラン及び立地適正化計画
- ・輪島市新エネルギー計画
- ・輪島市黒島地区重伝建保存地区防災計画

行政体内部の執行体制



ステークホルダーとの連携

- ・域内外の主体
「輪島市総合計画審議会」を主体とする
経済・環境・社会・学識団体
- ・国内の自治体
山口県萩市(姉妹都市)・奥能登地区市町
- ・海外の主体—国際連合食料農業機関

自律的好循環の形成へ
に向けた制度の構築等

- ・PDCAサイクルに基づき、行政体内部及びステークホルダーとの連携により常時見直しを進め、自立的好循環の形成に努める。
- ・行政体内部においては、「輪島市SDGs庁内ワーキング」における進行管理の中で見直しを行い、「推進本部」で意思決定。
- ・ステークホルダーとの連携協力においては、「パートナーシップの構築」、「重点プロジェクトの推進」の2つの観点から、定期的に評価・検証し、行政体内部にフィードバックする制度を構築し、官民連携で自律的好循環の形成に努めていく。

1. 未来ビジョン

2. 自治体SDGsの推進に資する取組

3. 推進体制

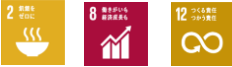
2022年度自治体SDGsモデル事業提案概要(提案様式3)

自治体SDGsモデル事業名:「能登の里山里海」、「観光」、「輪島塗」3つの“輪島ブランド”の連携による「SDGs未来都市・輪島」の実現

提案者名:石川県輪島市

取組内容の概要:輪島市が将来に渡って奥能登の中心的役割を果たし、歴史を積み重ねていくためには、白米千枚田に代表される世界農業遺産「能登の里山里海」、朝市を拠点とする「観光」、世界に冠たる「輪島塗」、これら三つが連携し、持続可能な発展を続けていくことが不可欠であり、SDGsの理念のもと、その実現に取り組んでいく。

経済



社会



課題:コロナ禍による「新しい生活様式」に対応する持続可能な観光振興

- 「輪島市 新観光ビジョン」の策定
- 「輪島市 SDGs未来都市マップ」製作

稼げる地域づくり、地場産品の販路拡大 等

経済→環境
地産地消の拡大

環境→経済
森林整備と漁場環境の保全

経済→社会
輪島塗の後継者育成

社会→経済
地域コミュニティの拡大

「能登の里山里海」・「観光」・「輪島塗」
三位一体のおもてなしによる
持続可能な「輪島ツーリズム」実践事業

1. 輪島の海と陸の豊かさが守られ、
2. 雇用の確保と、歴史的なまちなみ保全と文化振興が図られ
3. 伝統を継承し未来へと繋げる人財を育成する

豊かな海と水産資源の保護
歴史的街並みの保全 等

課題:輪島市の自然環境に育まれた
農林水産資源の次世代への継承

- 輪島朝市観光と食文化の継承事業
- 未来の“輪島めし”創作コンテスト

環境



課題:輪島塗を受け継ぐ人づくりと
伝統技術の保存と継承

- 輪島塗 現実工房×仮想工房
- 輪島塗 海外マーケット開拓事業

関係人口の増加
若手後継者育成 等

社会→環境
地域貢献事業者の増加

環境→社会
農林漁業従事者数の増加